

高校生が紡いだ、等身大の哲学コラム集

放課後の哲学

土浦一高哲学部 [編著]

あっぷる出版社



忘れていた感性を取り戻せ

SNSに人工知能にと技術の発達がとどまるところを知らない現代は、情報が飽和し、人々は無味乾燥な選択肢を与えられ、効率やタイムパフォーマンスに優れた最適解がものをいいます。そして、自分の頭で考えるまでもなく、その分野に優れた他の誰かや、処理能力に秀でたAIが適切な答えをくれる——そんな意識が浸透してしまえば、人々の関心は自身の行動が導く結果ばかりに向かい、その過程に対する眼差しは失われてしまいます。しかし、そんな生き方は、あまりにも無味乾燥ではないでしょうか。問題に対して立ち止まって悩む時間を失い、与えられた選択肢をなぞるだけの日々の中に、私たちは本当に自分が生きているという実感を得られるのでしょうか。（「おわりに」より抜粋）



“「なんとエポックメイキングで、胸が踊る書物の誕生か。当たり前を問う哲学、それを若者たちが純粋に実践したとき、私たちの思考空間が揺り動かされ、未知の化学反応が生み出されていくはずだ。ワクワクしかない。」
——ノ瀬正樹（哲学者 東京大学名誉教授）”

■ 書誌情報

四六判並製／208頁

定価1,800円+税（税込1,980円）

2026年9月7日発売

ISBN978-4-87177-373-7 C0010

全国書店・オンライン書店で発売

あっぷる出版社

■ 著者プロフィール

土浦一高哲学部（ツチウライチコウテツガクブ）（編著）

土浦第一高等学校の文芸・弁論部内に組織された哲学班としてスタート。2025年に哲学部として成立。哲学カフェを中心に、哲学書読書会、哲学史勉強会、哲学散歩のほか、哲学コラム執筆など、学内にとどまらない、対話を重視した活動を行なっている。

2024年から開催している、市民を交えた哲学カフェ「語るカフェ」は、生徒自身の企画、運営によるもので、ファシリテーターも生徒が務めている。

■ ご予約・ご購入

ご購入はこちらから。

予約受付中

